

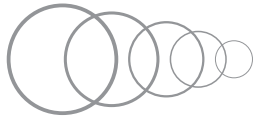
# 練馬区のあらし

1 地勢	8
2 歴史	10
3 人口	12
4 気象	19

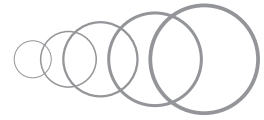


練馬区登録有形文化財（昭和 63 年度登録）  
氷川神社の狛犬（こまいぬ）〔氷川台〕

獅子型で阿形（あぎょう）・吽形（うんぎょう）の対をなしている。向かって左側の吽形像（うんぎょうぞう）の台石の背面には、「天明七年」（1787 年）の銘があり、区内の神社に残る狛犬としては最古のものである。

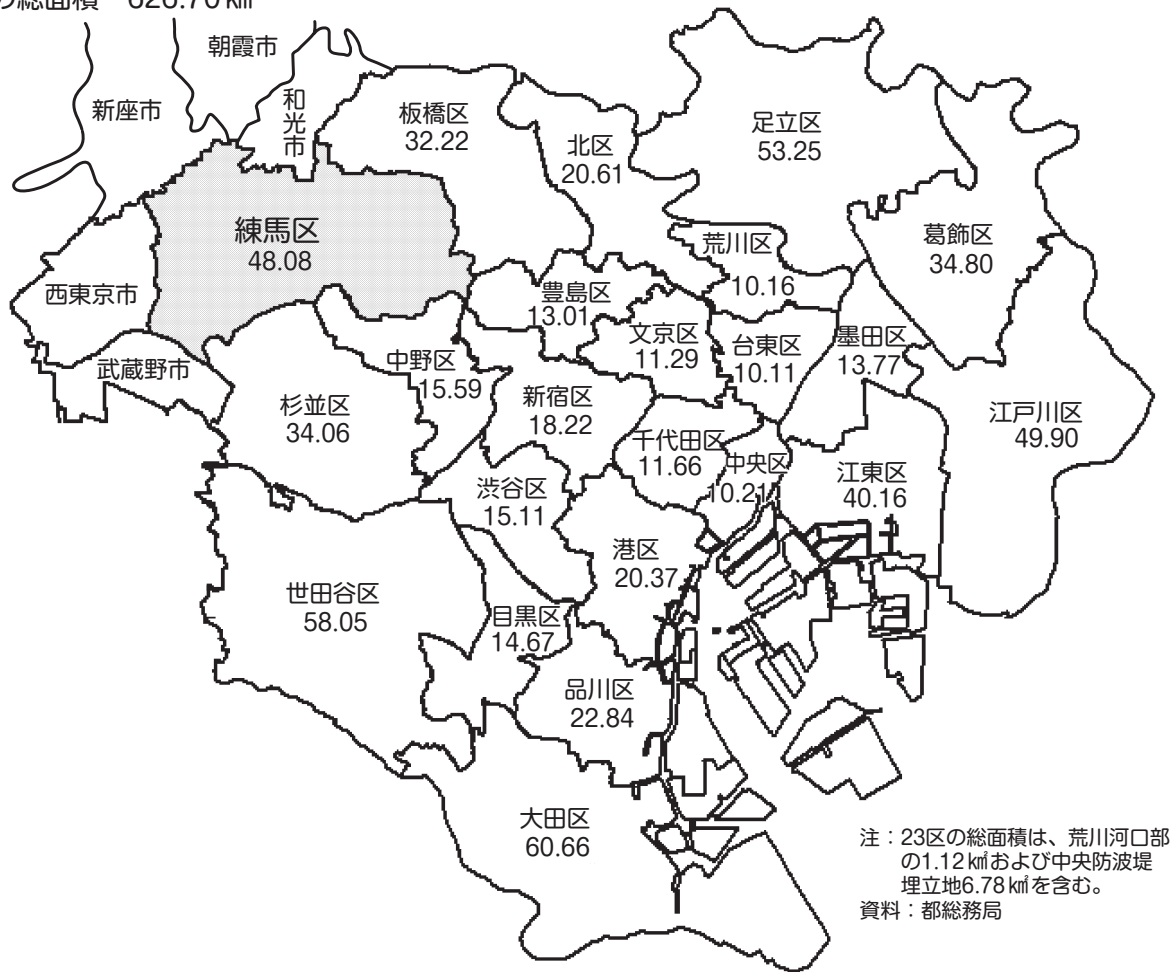


# 1 地 勢



23区の位置と面積（単位：km<sup>2</sup>）  
23区の総面積 626.70 km<sup>2</sup>

平成27年10月1日現在



## ●位置、面積

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。

経・緯度で見ると、東経139度40分52秒～139度33分46秒、北緯35度42分43秒～35度46分46秒に位置している。なお、練馬区役所の位置は、東経139度39分8秒、北緯35度44分8秒である。

一方、練馬区は面積は48.08km<sup>2</sup>で東西約10km、南北約4～7kmのほぼ長方形である。東京都の総面積2,190.90km<sup>2</sup>に対し、練馬区はその約2.2%、23区の総面積626.70km<sup>2</sup>に対し約7.7%に当たり、23区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の広さである。

## ●地 形

練馬区は、ほとんど高低差のないなだらかな地形をしている。

地盤高で見ると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっている。水準基標によると、関町北四丁目（石神井高校内）では海拔54.02m、羽沢三丁目（開進第四中学校内）では海拔26.01mとなり、平均すると、30～50m程度の起伏の少ない台地状となっている（資料：東京都土木技術支援・人材育成センター 平成27年水準基標測量成果表）。

この台地は武蔵野台地といわれる洪積台地である。

## ●地 質

練馬区の地質は、地質年代から見ると比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。

洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫層から構成されている。この台地の洪積層と、低地の沖積層の基盤になっているのが第三紀層である。

武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることができないが、ローム層の下には粘土と

町名図



小石の累層があって、水を含んでおり、そうした層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖の下などに露出して湧水となる。三宝寺池、富士見池や井頭池(弁天池)は、こうした湧水からできた池である(資料:昭和44年練馬区地下水調査報告書)。

●地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、『関東ローム層の赤土を黏ったところを「黏場」といった』、『石神井川流域の低地の奥まったところに沼=「根沼」が多かった』、『奈良時代、武蔵国に「乗瀧」という宿駅があった』、『中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを「ねる」といった』などの諸説があり、定説はない。

●区の紋章



ネリマの「ネ」の字と「馬のひづめ」を組み合わせ、図案化したものである。

練馬区が平和で、健康で、明るいまちに発展していくようにという願いをこめて、昭和28年12月に制定された。

●区の花と木



区の花 ツツジ

美しい花と豊かなみどりの、住みよいまちづくりを進めるために、区のシンボルとなる花と木を区民から公募し、昭和46年4月、花には「ツツジ」、木には「コブシ」を選定した。



区の木 コブシ